

# 第3学年防災教育学習指導案（総合的な学習の時間）

## 1 単元名 「防災安全マップをつくろう」（全3時間）

### 2 単元設定の理由

現代社会は、毎日の生活の中に事故や事件、災害など様々な危険が存在している。それは地域社会で暮らす児童もいつ、どこで、何が起きるか予測の難しい中で様々な危険と隣り合わせで過ごしている。特に災害への対応については、平成30年7月に起きた西日本豪雨の教訓を生かし、児童一人一人の防災意識を高めることは喫緊の課題となっており、防災教育を通して、自分の命を自分で守るために必要な知識や技能を身に付け、身に付けた知識や技能を児童自身が活用していくことが求められている。

そこで、3年生では、地域の様々な災害リスクについて知ること、通学路において災害が発生した時にどのように行動し、どこに避難すればよいのかということを考え、自分で判断して適切な行動を取ることができる力を身に付けることができるように単元を設定した。そして、通学路のフィールドワークを行い、学区の防災安全マップを作成することを通じて、安全な場所と危険な場所を把握し、学習したことを生かして災害発生時の避難場所を設定する力を身に付けることができるようにしたい。また、学校での学習だけで終わることがないように、学校で学んだことを家庭に持ち帰り、家族を巻き込んで一人一人の児童が中核となって家族と共に災害発生時の行動や避難場所について話し合うことができるようにしたい。

### 3 単元目標

通学路における防災に関する安全マップを作成する活動を通して、災害に応じた適切な避難行動の在り方や安全な避難場所があることに気付き、災害時、自己の判断で適切に行動できるようにする。

### 4 単元で育てようとする資質や能力及び態度

知識・技能	地域における各種の災害リスクについて知り、災害に応じた避難行動や避難場所があることに気付く。
思考力・判断力・表現力	地域の災害リスクから問題を見だし、避難行動や避難場所について情報を集め、整理・分析してまとめることができるようにする。
学びに向かう力・人間性	探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、自他の安全や生命を尊重しながら、積極的に課題を追究しようとする態度を養う。

### 5 単元の評価規準

評価の観点	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会に関すること
評価規準	地域の災害リスクに気付くとともに、災害時の避難場所や避難方法など災害から命を守るための情報を収集している。	災害発生時に自分の命を守るためにどのような行動を取ればよいかを考え、適切に行動することができる。	地域や通学路の危険予測や安全な場所について、友達や家族と調べたり、話し合ったりする。

## 6 指導計画（全3時間）


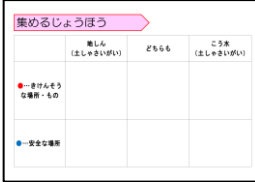
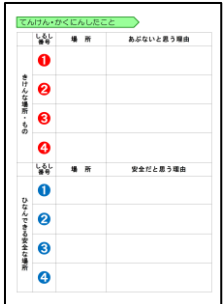
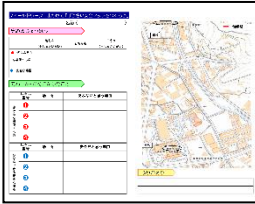
テーマ 時数	主な学習活動	指導上の留意点	時間
防災安全マップをつくる (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の災害について考える。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の災害リスクについて考え、災害に応じた避難行動や避難に適した場所を知る。</li> <li>・ 通学路における危険予測をし、災害に遭遇した時の身の守り方について考える。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の災害リスクについて考えることで、災害に応じた避難行動や避難場所があることに気付くことができるようにする。</li> <li>・ 通学中の場面を想定し、危険予測をすることで、災害をより身近な問題として捉え、防災意識を高めることができるようにする。</li> </ul>	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「防災安全マップ」を作る準備をする。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フィールドワークで調べる視点について確認し、整理する。</li> <li>・ シミュレーションを行い、フィールドワークの方法を知る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害から身を守るために、通学路上の何を調べたらよいか問うことで、調べる視点を明確にできるようにする。</li> <li>・ 動画を使ったフィールドワークのシミュレーションを行うことで、見通しをもって取り組むことができるようにする。</li> </ul>	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● フィールドワークに出て点検・確認を行う。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調べる視点にしたがって点検・確認する。</li> <li>・ 災害に応じた避難行動や避難場所について確認する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休業日に親子で実施する。 (実施にあたっては、指導計画に追加して行ってもよい)</li> <li>・ 参観日を活用し、親子下校での実施や、地域の方に依頼してグループでの実施など、学校の実態に応じて工夫する。</li> </ul>	課外
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ フィールドワークをもとに、通学路の危険なところや避難できそうな場所について話し合う。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フィールドワークで調べたことについて話し合い、修正や追加する点はないか確認する。</li> <li>・ これまでの学習のまとめとして「もしもの時の避難先計画」を作り、家族と共有する事柄について計画を立てる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループで話し合うことにより、点検した理由がより明確になるようにする。</li> <li>・ 家族と話し合って情報を共有することで、自分も家族の命も守ることにつながることに気付くことができるようにする。</li> </ul>	1

## 7 本時案

### (第1時)

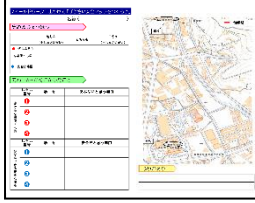
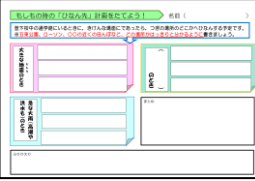
目 標	地域における各種の災害リスクを想起し、災害に応じた避難行動や避難場所があることについて知り、通学中の身の守り方について考えることができる。	
学習活動	指導上の留意点	教材
1 さまざまな災害に気付き、避難行動や避難場所について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害には、様々なものがあり、洪水や高潮などある程度予測が可能なものと、地震や土砂災害など突発性の高いものがあることを知ること、災害に応じた避難行動や適切な避難場所について考えることができるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">○○学区の災害について考えよう。</div>	<p>【さまざまな災害】</p> 
2 地域や学区の災害リスクについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「倉敷市ハザードマップ（各地区）」の情報を読み取ること、地域の災害リスクや、避難場所などについて確認できるようにする。</li> <li>○ 「もし○○の災害が起きたら、どこに逃げたらよいだろうか。」と問い、ハザードマップ上で災害が起きたときの図上訓練を行うことで、安全な場所への避難行動を全員で共有できるようにする。</li> </ul>	<p>【倉敷市ハザードマップ】</p> 
3 通学中に起こる災害リスクや、身を守るための避難行動、避難場所について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「なぜ、通学中の災害について考えるのか。」と問うことで、通学中は自分の判断で身を守るための行動をとる必要があることに気付き、防災意識を高めることができるようにする。</li> <li>○ 避難場所として「子ども110番」を取り上げることで、本来の目的の防犯対策だけでなく災害対応の目的でも駆け込み場所として利用できることに気付くようにする。</li> <li>○ どんな場面でも、自分の命を守るために避難することが何より大切であることを伝えることで、災害など危険な場面に遭遇したときに迷いなく行動することを意識付けるようにする。</li> </ul>	<p>【子ども110番の家】</p>  <p>【指定避難所・緊急指定避難場所】</p> 
4 本時の学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 板書をもとに本時の学習で大切なことを確認することで、まとめることができるようにする。</li> </ul>	
5 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習を振り返り、通学路で危険な場面に遭遇したときに、適切な避難行動や避難場所を知っておくことは自分の命を守ることにとても大切であることを伝えるようにする。</li> </ul>	<p>【フィールドワークシートモデル】</p> 
6 次時の学習について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「フィールドワークシート」のモデルを提示することで、次時はフィールドワークの計画を立てる活動を学習することを知らせる。</li> </ul>	
評 価	<p>地域における各種の災害リスクを想起し、災害に応じた避難行動や避難場所があることについて知り、通学中の身の守り方について考えている。</p> <p style="text-align: right;">【知識・技能】（発言・ワークシート）</p>	

(第2時)

<p>目 標</p>	<p>通学中に各種の災害に遭遇した場合に備えてフィールドワークで点検・確認をする視点について考え整理し、フィールドワークの方法を身に付けることができる。</p>	
<p>学習活動</p>	<p>指導上の留意点</p>	<p>教材</p>
<p>1 前時で学習したことを確認し、本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○ 前時の学習を振り返ることで、災害に応じた避難行動や避難場所を想起し、通学中は自己の判断で身を守る行動をしなければならないことを確認できるようにする。</p>	<p>【さまざまな災害】</p> 
<p>「ぼうさい安全マップ」を作るためのじゅんびをしよう。</p>		
<p>2 フィールドワークで点検・確認する視点について考え整理する。</p>	<p>○ 前時の学習を想起させることで、自宅から学校までの通学路で、「きけんそうな場所・もの」や「安全な場所」などの集める情報について考えることができるようにする。</p> <p>○ 「きけんそうな場所・もの」や「安全な場所」の絵や写真で例を示しながら分類していくことで、災害種によって、危険・安全な場所は違うことを確認できるようにする。</p> <p>○ 「きけんそうな場所・もの」や「安全な場所」について、「なぜ、そう思うのか。」と根拠を問うことで、災害種に応じた適切な避難行動を取ることができるようにする。</p>	<p>【集める情報】</p>  <p>【点検・確認したこと】</p> 
<p>3 フィールドワークのシミュレーションを行う。</p>	<p>○ 動画を使ったシミュレーションを行い、ポイントとなる場面で止め、「きけんそうな場所・もの」や「安全な場所」について考えさせることで、フィールドワークで集める情報を明確にできるようにする。</p> <p>○ 動画を引き続き流し、自力でそれぞれにワークシートに気付いた情報を書き込ませることで、フィールドワークの仕方を練習できるようにする。</p> <p>○ 集めた情報を交流することで、自分では気付かなかったところにも目を向け、より防災意識を高めることができるようにする。</p>	<p>【フィールドワークシート】</p> 
<p>※フィールドワークについては、</p> <p>① 休業日等に各家庭で親子で実施する。(課外活動)</p> <p>② 学校の授業時間内等で実施する。(例：総合的な学習の時間や社会科の校外学習、参観日後の親子下校(引き渡し訓練後の下校)等)など、各学校の実態に合わせて工夫して実施する。できるだけ①が望ましい。また、地域の方へボランティアをお願いして計画してもよい。</p>		
<p>※フィールドワークの実施方法が決定し、第3時で「もしもの時の『ひなん先』」を作成する際には、</p> <p>① 各家庭で親子で実施する場合 → 災害の場面の3つ目は、各家庭で話し合って設定する。</p> <p>② 各学校で実施する場合 → 災害の場面の3つ目は、授業内で話し合って設定する。</p>		

<p>4 本時の学習のまとめをする。</p> <p>5 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○ 本時の学習のまとめとしてフィールドワークの手順をもう一度確認することで、フィールドワークの方法を身に付けることができるようにする。</p> <p>○ 通学路のフィールドワークを行うことが、自分や家族の命を守ることにつながることに気付くことができるようにする。</p> <p>○ フィールドワークを実施する際の注意点などについて知らせるようにする。</p>	
<p>※フィールドワークで使用するマップについては、各種地図や国土地理院HP (maps.gsi.go.jp) などを活用して、自宅から学校までの通学路が明記された地図をあらかじめ作成しておくようにする。すでに学校で作成されている学区の地図などを活用してもよい。きるだけ詳細な縮尺の地図にすることが望ましい。</p>		
<p>評価</p>	<p>通学中に各種の災害に遭遇した場合に備えてフィールドワークで点検・確認をする視点について考え整理し、フィールドワークの方法を身に付けている。</p> <p>【学びに向かう力・人間性】(発言・ワークシート)</p>	

(第3時)

目 標	フィールドワークを通して作成した防災安全マップを活用しながら話し合い、さらに実行性のあるものになるよう整理・分析してまとめることができる。	
学習活動	指導上の留意点	教材
1 ここまで学習してきたことを確認し、本時のめあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ フィールドワークで点検・確認したことを振り返ることで、活動の成果を確認できるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○○学区のきけんなところや、ひなんできそうな場所について話し合おう。</p> </div>	<p>【フィールドワークシート】</p> 
2 グループで点検・確認した箇所の紹介や理由について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自宅が同じ方面の友達とグループを作るようにする。グループを作る際には、学校を中心として、東西南北の方角や、地区名など児童に分かりやすい方法でグループを作るようにする。</li> <li>○ フィールドワークで抽出された箇所について理由や根拠を明らかにしながら話し合うことで、災害に応じた避難行動や避難に適した場所となっているかを確認できるようにする。</li> <li>○ 新たな発見が見られた場合は、フィールドワークマップへ随時追加するよう知らせる。</li> <li>○ 新たな疑問が生じた場合は、解決するための方法について考える。</li> </ul>	
3 他のグループのフィールドワークマップを確認し、学区全体の特徴をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 他のグループのフィールドワークマップを確認して情報を共有し、学区全体の特徴をつかむことで、放課後や休日に学区内で過ごしているときに、避難先として利用できる場所がどの辺りにあるのか気付くことができるようにする。</li> </ul>	
4 これまで学習してきたことをもとに、緊急時の避難先計画を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワークプリントを作成して持ち帰り、家庭で家族と話し合うことで、家族間の取り決めを確認したり、避難先を設定したりすることができるようにする。</li> </ul>	<p>【もしもの時の「ひなん先」計画をたてよう！】</p>
<p>※ワークプリント「もしもの時の『ひなん先』」を作成については、授業内で児童が避難先を書き込むことができるところは書き込み、未記入のところは、各家庭で話し合って設定するように指導する。また、災害用伝言ダイヤルの使い方については、実態に合わせて指導してもよい。</p>		
5 本時の学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 避難先は決定的なものではなく、災害時の状況に合わせて臨機応変に行動することが大切であることに気付くことができるようにする。</li> </ul>	
6 これまでの学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの学習で身に付けた力を生かし、今後も自分や家族の命を守るためによりよい方法を考え続けていくことが大切であることに気付くことができるようにする。</li> </ul>	
評 価	<p>フィールドワークを通して作成した防災安全マップを活用しながら話し合い、さらに実行性のあるものになるよう整理・分析してまとめている。</p> <p style="text-align: center;">【思考力・判断力・表現力】(発言・ワークシート)</p>	